

福島のおゆき国会日誌

<岸田首相に論戦挑む>

22 日、予算委員会で岸田文雄首相に対し、防衛三文書とその財源について論戦に臨みました。



この国会は本来、もっとこの分野についての議論が深められるべきだったのですが、これまであまり本質的な議論がなされていません。私は、

- ①そもそも何が具体的に脅威なのか
- ②その脅威を抑止するに足る具体的な対策はなにか
- ③我が国の安全保障環境の厳しさは他国に比して 30 年間



経済が停滞していることにあり、防衛増税をすれば余計景気を冷やして国力を失うことになるのではないか、という基本的なことを問いました。

本来であれば 1 時間くらいかけた緻密な議論が必要なのですが、私たちの会派に与えられた時間はわずか 11 分。岸田首相の意味のない抽象的な答弁を覆すことはできませんでした。

審議の様子は、YouTube からご覧いただけます。



<駐日ドイツ大使講演 安全保障政策の大転換の理由>



21 日、日米欧総合安全保障議員協議会では、ドイツのクレーメンス・フォン・ゲツェ駐日大使閣下から、露宇戦争を受けたドイツの安全保障政策の変化について話をお聞きしました。第二次大戦の敗戦国として、産業大国として日本と似た立場にあるドイツが、なぜ今安全保障政策の大転換を図っているのか、とても参考になる話が聞けました。



<有志の会 法案ヒアリング>

21 日の有志の会の法案ヒアリングでは、この通常国会の重要法案の一つである GX 推進法案について、経済産業省から説明を受けました。今後 10 年間で 20 兆円規模の脱炭素化関連予算を担保するため、GX 経済移行債という国債を発行して、化石燃料賦課金や排出量取引制度の負担金で償還していく、という野心的な制度の導入が中身です。

役所が作成したポンチ絵（図表化・図示化した資料）を見ているとつい納得してしまうのですが、法案を一条一条丹念に読んでいくとさまざまな問題が明らかになってきます。

<筑西で国政報告会開催 満員御礼>

22 日、筑西市において県西地区後援会連合会による国政報告会を開催いたしました。予算委員会での質疑直後に東北新幹線に駆け込み、有志の会の 5 人全員が揃って、今後の国政への決意をお話いたしました。



会場には各市各地区の後援会から 500 人近い方にいらしていただき、満席でした。

これを弾みに、次の衆院選に向けて常在戦場の思いで活動してまいります。

